

白 方 の 風

【学校教育目標】自ら学び考え、心豊かで
健やかに生きる児童の育成

令和7年度
No.16
東海村立白方
小学校
2025.7.18
児童数 451人

保護者の皆様には、1学期の間、朝の立哨の見守り、日々のお子様の準備物の確認など、本校の教育活動に多大なご支援ご協力を賜り心より深く感謝申し上げます。そうしたご支援のおかげで、「自分で考え行動できる。」児童の力が伸びてきました。学習や生活の中で、自分や仲間と「何がしたいのか」「そのためにどうしたらいいのか」を考えながら、問題や課題を解決する力を伸ばして参りました。心より深く感謝申し上げます。

さて、明日から、44日間の夏休みがスタートします。終業式でも児童にお話をいたしました。が、**全員無事に9月1日の始業式を迎えられる**ように、自分の命は自分で守ることを成し遂げてほしいと思っております。交通安全の徹底、不審者への適切な対応、水の事故に遭わないための行動の仕方、SNSやインターネット上への不適切な書き込みをしないことや、ネット上で小学生になりすました相手に不適切な画像を送信してしまったりしないこと、子供同士で金銭のやり取りをしない、物のやり取りをしないことなどお話をいたしました。ご家庭でもどうぞご助言いただければと存じます。また、何か困ったことがあったら学校へ連絡して欲しいといったこともお話をいたしました。どうぞ夏休み中も何かありましたら学校へご相談いただければと存じます。

3年代表児童「1学期を振り返って」

わたしは、1学期で2つのことができるようになりました。

1つ目は割り算です。さいしよは、やり方がわからなくて失敗ばかりしていました。でも、かけ算を使って考えるといいことを知り、だんだんわかるようになってきました。それから授業やスキルで繰り返し練習しました。そうしたらテストでも100点をとることができました。今では、すらすらと問題をとくことができます。

2つ目は一輪車にのれるようになったことです。3年生になったばかりの時はこわくてこぎ出すことができませんでした。でも、まわりの友達はみんなのれていて、くやしい気持ちになりました。私は、「絶対にのれるようになろう」ときめて、学校の月・水曜日の休み時間や家のにわでれんしゅうをしました。そうしたらとうとう、のれるようになりました。のれるようになったら、とてもうれしい気持ちになりました。どりよくをしてれんしゅうをしてよ

かったなと思いました。2学期も、できないことをできるようにどりよくしていこうと思います。

6年代表児童「1学期を振り返って」

私は1学期に頑張ったことが2つあります。

1つ目は福祉委員で、委員長として、毎朝のあいさつ運動を頑張ったことです。今年の白方小のキャッチフレーズは、「日本一あいあつがひびきわたる学校」です。それを聞いた時、今の白方小学校のあいさつでは、このキャッチフレーズはほど遠いとおもいました。その時の白方小学校のあいさつは、頭をペコリと下げるだけで、口からあいさつをしていることがなかったので、自分が福祉委員の委員長として、このキャッチフレーズを実現させなくてはならないと責任感をもちました。「日本一あいさつがひびきわたる学校」に、するためには、元気に、笑顔で、大きな声であいさつしようと心がけました。そして、少しでも、私のあいさつで、心が温まるような人がいてくれることを願いながらあいさつをすることができました。白方小学校のみなさんが、少しずつ顔を見てあいさつを返すようになり、とてもうれしく思いました。

2つ目は小学校最後の東京遠足です。遠足実行委員となり、遠足に向けてのスローガンや、バスで行うレクを考えることができました。バスのレクではだれもが楽しめるようなレクにすることになり、意味が分かるとこわい話や。カラオケなどをすることに決定しました。遠足当日、調べてきた、意味がわかるとこわい話を話すと、「読み方がじょうず。」「とても、こわかった。」などと、喜んでもらえていて、一生懸命に調べてよかったと思いました。カラオケでは、バスに乗っている人たち全員が、もり上がることができて、心がほっこりしました。最後に、2学期以降がんばっていききたいことは、勉強はもちろん、これから行われる行事は小学生として最後になるので、悔いのないように参加したいです。そして、中学生に向け、今まで以上に、自分の行動や言葉に責任をもてるようになり、相手の意見を尊重できるような人を目指します。

平和を願って折り鶴を折り、広島へ。

1945年（昭和20年）8月6日8時15分広島に、そして8月9日11時2分長崎に相次いで原子爆弾が落とされ、20万以上の方がその年の年末までに亡くなりました。原子爆弾の炸裂による放射性物質から出される放射線によって、白血病を煩った小学6年生の女の子（禎子さん）は病気が治ると信じて、折り鶴を折り続けました。しかし病に勝てず10か月ほどで亡くなりました。その死を悼み平和を願うため「原爆の子の像」を広島の子供たちが募金を集め作りしました。その像には、毎年平和を願うための折り鶴が全国から奉納されています。白方小でつくった折り鶴も、その像の側に奉納する予定です。全校朝会での平和大使の折り鶴を折る意味の説明を聞き、各学級で一人一人が平和へのメッセージを書いた色紙で折り鶴を折りました。

